



セッション情報

ワークショップ

[1PW2-02] 【日本分子生物学会・日本生態学会合同企画】 分子生物学×生態学：生物学を原点に回歸する

2018年11月28日(水) 17:30 ~ 19:00 第2会場 (3階 301)

オーガナイザー:杉本 亜砂子(東北大学)、オーガナイザー:占部 城太郎(東北大学)

[J]

分子生物学と生態学は、ゲノム情報の蓄積とその解析技術の進歩により急激にその距離を縮めつつある。分子生物学者は非モデル生物を扱いはじめ、生態学者は分子生物学的手法を取り入れてきた。分子生物学と生態学が手を結ぶことで生物学の未開拓領域に切り込めるだろうか？本ワークショップは日本分子生物学会と日本生態学会の合同企画として、両分野の融合的研究の最前線を紹介する。なお、分子生物学×生態学の今後について議論するフォーラムも開催予定である。

Introduction (17:30 ~ 17:34)

17:34 ~ 17:53

[1PW2-02-1] 抑制型ヒストン修飾H3K27me3におけるエピジェネティックランドスケープの季節変化

○工藤 洋¹ (1.京都大学・生態学研究センター)

キーワード：分子フェノロジー、ハクサンハタザオ、ヒストン修飾、H3K27me3、季節動態

17:53 ~ 18:12

[1PW2-02-2] 頑健な代謝制御システムが支えるショウジョウバエ広食性種の栄養環境への適応

服部 佑佳子¹、渡辺 佳織¹、金岡 泰哲¹、水谷 祥子¹、内山 博允²、矢嶋 俊介^{2,3}、和多田 正義⁴、○上村 匡^{1,5}

(1.京都大学大学院生命科学研究科、2.東京農業大学生物資源ゲノム解析センター、3.東京農業大学バイオサイエンス学科、4.愛媛大学大学院理工学研究科、5.AMED-CREST)

キーワード：栄養適応、種間比較、代謝、マルチオミックス、ショウジョウバエ広食性種と狭食性種

18:12 ~ 18:31

[1PW2-02-3] クマムシ乾眠機構の適応と進化

○荒川 和晴^{1,2} (1.慶大・先端生命、2.慶大・環境情報)

キーワード：クマムシ、乾眠、ゲノム解析、オミクス解析

18:31 ~ 18:50

[1PW2-02-4] 環境DNA：微生物からマクロ生物へ

○源 利文¹ (1.神戸大学大学院人間発達環境学研究科)

キーワード：環境DNA、微生物、マクロ生物

総合討論 (18:50 ~ 19:00)